

令和7年度

相双地域医療体験研修

令和7年7月29日(火)～31日(木)

実施報告



福島県相双保健福祉事務所



令和 7 年度相双地域医療体験研修実施要領

1 研修の目的

相双地域の医療や復興の現状について、医療機関・被災地の視察や地域住民との交流等を通して理解を深めてもらい、将来の地域医療の担い手の育成・県内定着を図るもの。

2 開催日程

令和 7 年 7 月 29 日(火)～31 日(木)

3 対象者

福島県立医科大学医学部生 12 名（3 年生）

4 集合・解散場所

福島県立医科大学

5 行程

別紙のとおり

6 研修先

- (1) 相馬市総合福祉センター（はまなす館）
- (2) 相馬広域こころのケアセンターなごみ
- (3) 南相馬市立総合病院
- (4) 富岡消防署
- (5) ふたば医療センター附属病院
- (6) 中間貯蔵事業情報センター
- (7) NPO 法人 富岡町 3.11 を語る会

令和7年度 地域医療体験研修 行程表

1 日程

令和7年7月29日(火) ～ 7月31日(木)〔2泊3日〕

2 実施内容等

月日	時間	所要時間	研修先	主な内容	所在地
7/29(火)	8:30		福島県立医科大学	学生・引率教員集合	福島市
	8:30 ～ 10:00	1:30	移動		
	10:00 ～ 10:05	0:05	総合福祉センター(はまなす館)	○オリエンテーション ・日程や研修の心構え等の説明	相馬市
	10:05 ～ 11:25	1:20	〃	○血圧測定の練習	
	11:25 ～ 11:45	0:20	移動		
	11:45 ～ 12:45	1:00	昼食	海游の宿はくさん	相馬市
	12:45 ～ 13:05	0:20	移動		
	13:05 ～ 14:30	1:25	総合福祉センター(はまなす館)	○血圧測定 ・地域住民との交流	
	14:30 ～ 15:00	0:30	移動・片付け等		
	15:00 ～ 16:30	1:30	相馬広域こころのケアセンターなごみ 場所:総合福祉センター(はまなす館)	○講話 ○グループワーク ○質疑応答	相馬市
	16:30 ～ 17:00	0:30	移動		
	17:00 ～ 18:20	1:20	まとめ・発表準備 場所:旅館 かのや	○一日のまとめ ※医大進行	相馬市
	18:20 ～		宿泊		
7/30(水)	8:00		宿発		
	8:00 ～ 8:50	0:50	移動		
	8:50 ～ 11:10	2:20	南相馬市立総合病院	○院長講話 質疑応答 ○院内見学 ○病院ボランティアとの懇談 ○臨床研修医との意見交換	南相馬市
	11:10 ～ 11:50	0:40	移動		
	11:50 ～ 13:00	1:10	昼食	味感さとう	浪江町
	13:00 ～ 13:40	0:40	移動		
	13:40 ～ 14:40	1:00	富岡消防署	○講話 ○質疑応答	富岡町
	14:40 ～ 15:00	0:20	移動		
	15:00 ～ 16:30	1:30	ふたば医療センター附属病院	○開会 ○院長講話 ○院内視察・入院患者との交流 ○質疑応答	富岡町
	16:30 ～ 16:40	0:10	移動		
	16:40 ～ 17:40	1:00	まとめ・発表準備 場所:富岡町文化交流センター 学びの森 第1研修室	○一日のまとめ ※医大進行	富岡町
	17:40 ～ 18:00	0:20	移動		
	18:00 ～		タイズヴェルデホテル	○宿泊先到着	大熊町
	18:00 ～ 18:10	0:10	移動		
	18:10 ～ 19:10	1:00	夕食	和食さかい	大熊町
	19:10 ～ 19:20	0:10	移動		
	19:20 ～		宿泊	タイズヴェルデホテル	大熊町
7/31(木)	8:45		宿発		
	8:45 ～ 9:00	0:15	移動		
	9:00 ～ 9:30	0:30	中間貯蔵事業情報センター	○見学	大熊町
	9:30 ～ 9:35	0:05	移動		
	9:35 ～ 11:00	1:25	語り部講話(9:40～10:40) 場所:CREVAおおくま 貸会議室1A	○語り部講話	大熊町
	11:00 ～ 11:50	0:50	昼食	Panier	大熊町
	11:50 ～ 12:15	0:25	移動		
	12:15 ～ 12:45	0:30	道の駅なみえ	○休憩	浪江町
	12:45 ～ 13:20	0:35	移動		
	13:20 ～ 16:30	3:10	発表 場所:相双保健福祉事務所 大会議室	○発表・講評	南相馬市
	16:30 ～ 18:00	1:30	移動		
	18:00 ～		福島県立医科大学	解散	福島市

研修1日目（7月29日）

相馬市総合福祉センター（はまなす館）



〈 主な内容 〉

相馬市総合福祉センター（はまなす館）にお伺いしました。

1. 相馬市社会福祉協議会の職員及びデイサービス等を利用している皆様の血圧測定を行いました。
2. 血圧測定を行いながら、普段の生活やセンターでのお話を伺いました。

＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 地域住民の皆さんとお話をしながら血圧を測ることで、その方々の生活習慣や平均血圧などを知ることができた。
- ✓ 若い人から高齢の方まで色々な人と色々な話をすることができ、血圧測定もスムーズに行うことができた。
- ✓ 自分の体についての関心の度合いや健康意識が各々異なっていることに気づいた。関心が少ない人には、こちらから歩み寄る姿勢が必要であると感じた。

相馬広域こころのケアセンターなごみ



〈 主な内容 〉

相馬広域こころのケアセンターなごみの米倉センター長より、「災害と心のケア」をテーマに、なごみでの実際の支援等について、講話いただきました。

＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 支援を受ける人のプライドや尊厳を尊重しつつ自立を促し、継続支援することが大切だと学んだ。
- ✓ 技術が進み、世の中がとても便利になっている一方で、その隙間に取り残されている人々がいる。なごみの活動は、そのような人々を救っていると感じた。
- ✓ 震災による建物への被害や外傷等を負った被災者は顕在化し、被災地外にも発信できているが、精神的な被害についてはあまり知られていないのではないかと感じた。
- ✓ 震災による精神的影響は、今後長い間付き合っていかなければならないものであり、個々人によって、その原因が異なるからこそ、違ったアプローチが必要になるということが分かった。

研修2日目（7月30日）

南相馬市立総合病院



〈 主な内容 〉

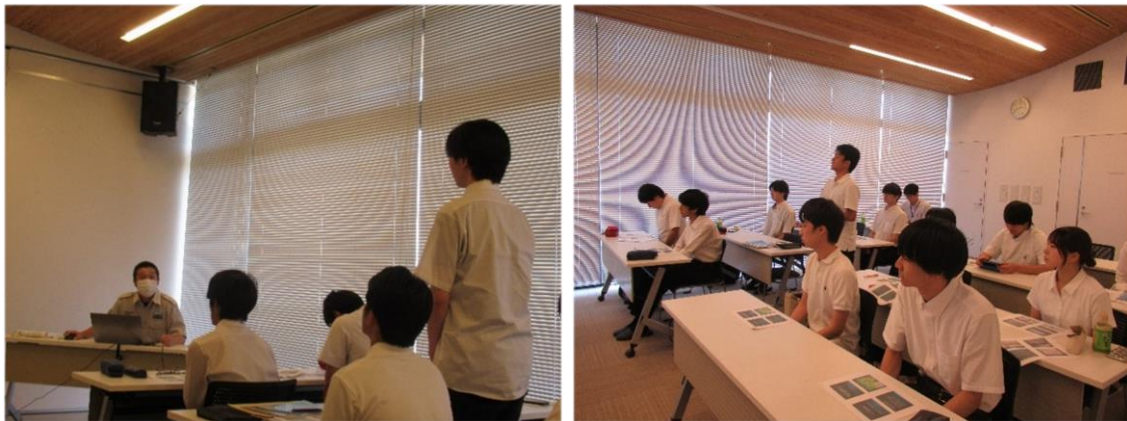
相馬地域の二次救急医療機関である南相馬市立総合病院にお伺いしました。

1. 杉本院長より、南相馬市立総合病院の成り立ち、東日本大震災時の病院の状況と患者さんへの職員の対応、相双地域の医療の現況と病院の役割について講話いただきました。
2. 身体の不自由な患者さんの介助や院内案内等を行う病院ボランティアと懇談し、活動内容やボランティアとしてのやりがい、相双地域に対する想い等をお伺いしました。
3. 臨床研修医と懇談し、地域の病院で働く意義や、学生のうちに取り組むべきこと等をお伺いしました。
4. 院内を見学し、説明を受けました。

＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 現在の医療問題の最たるものは、患者に対する医師の数が少ないことであると考えているが、今後、人口減少の影響で患者も減少するかもしれないという別視点で、問題を捉えられるようになった。
- ✓ ボランティアの方々がやりがいをもって病院に協力してくださっていることを知った。少なからず、時間的制約や健康への影響が伴うことを承知のうえで、誇りをもって取り組まれていることに対して感銘を受けた。
- ✓ 研修医の方の話を聞くことで、どのような医療を行っているのか、より理解を深めることができた。
- ✓ 地域医療は、どれか一つに特化した医療だけではなく、幅広く対応できることが不可欠であると学んだ。地域医療に携わる医師になる訓練は、他の専門医になる研修とは異なるものだと感じた。

富岡消防署



〈 主な内容 〉

患者の搬送を通して双葉地域の救急医療を支える富岡消防署にお伺いしました。
植杉救急救命士より、救急搬送の現状や震災当時の活動について講話いただきました。

＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 何事も自分一人で抱え込むのではなく、苦労等をほかの人と共有して仕事に取り組んでいく姿勢が大切だと学んだ。
- ✓ 搬送に時間がかかる場合、どこにボトルネックがあるのか分析し、地域や県、国でその解決へと向かうのが大切であると感じた。
- ✓ 救命士として地域全体のことを考えられるのは、使命感のようなものがあるからなのではないかと感じた。自分も将来、医師でなければいけないことを見つけ、責任を持って働きたい。

ふたば医療センター附属病院



〈 主な内容 〉

双葉郡の地域医療を担うふたば医療センター附属病院にお伺いしました。

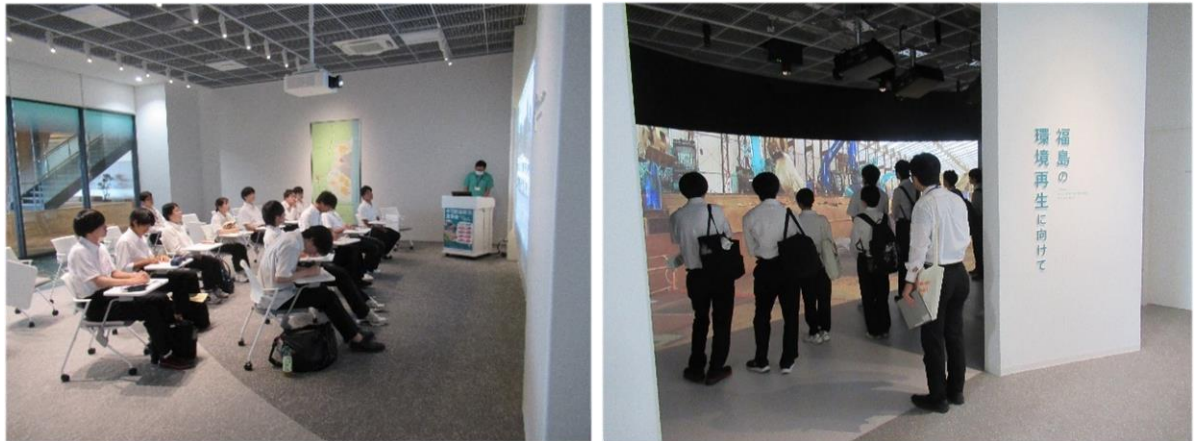
1. 谷川院長より「ふたば医療センターの取り組み」というタイトルで、ふたば医療センターの地域及び患者さんの特徴をととても分かりやすく講話いただき、学生からの質疑応答にも丁寧に回答いただきました。
2. 院内を見学し、医療機器及び設備等の説明を受けました。
3. 入院患者の方との交流の場を設けていただきました。
4. 専門看護技師の方も交え、学生からの質問にお答えいただきました。

＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 医師が足りない地域・リソースが少ない地域でこそ、ニーズや実情分析が重要であることに気づいた。
- ✓ 地域の特性を理解し、他の施設との連携も深めながら医療体制を整えていくことが重要であると感じた。
- ✓ 患者さんとの実際の対話を通して、患者さんの痛みや苦しみを気かけ、理解できるようになりたいと思った。
- ✓ 症例にあたるたびに周囲にまで目を向け、それが偶発的でなければ原因解決を目指す取り組みができる医師になりたいと思った。
- ✓ 技術と並行して、様々な人との関わりを通してコミュニケーション能力も磨いていこうと思った。

研修3日目（7月31日）

中間貯蔵事業情報センター



〈 主な内容 〉

中間貯蔵事業、除去土壌等の復興再生利用及び県外最終処分をはじめとする福島復興・環境再生の取組を発信する施設である、中間貯蔵事業情報センターにお伺いしました。

＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 県外での最終処理の方法について、まだ決まっていらないという点で、手探り状態での復興作業でもあるということを学んだ。
- ✓ どのように土壌を保管しているのかが、映像で分かりやすく説明されていてよく理解できた。
- ✓ 原発事故直後の医療とその後の健康被害のほかに、放射線で汚染された土壌の処理問題に尽力していたことに気づいた。

語り部講話



〈 主な内容 〉

NPO 法人富岡町 3.11 を語る会の宗像様より、震災当時の状況やその後の避難状況、災害からの教訓等について口演いただきました。

＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 今まで専門的な立場からの被災状況しか知ることができなかったが、自分と同じ世代（震災当時、小学生）の話であったため、とても興味を持って聞くことができた。
- ✓ もし、今後、大災害が起きたときに尽力することは、災害時の辛さ、大変さと何をしてくれたら嬉しいかを知っている私たちの責務だと感じた。
- ✓ 原発の存在に関して、ただ否定するだけではなく、地震・津波・原子力災害の複合災害を経験した唯一の地域として、二度と同じようなことが起こらないよう対策を考えたり、経験を伝えていくことが大切だと考えた。

課題のまとめ・発表



〈 主な内容 〉

「地域実習の感想」「地域医療を担う医師に求められる資質・能力とは?」「地域実習を通して考える医学部卒業までに備えるべき能力とは?」について、プレゼン資料にまとめて各自が発表し、質疑応答を行いました。

学生から発表された感想・意見

○「地域実習の感想」

- ・ 地域の人たちが接しやすく、また患者さんと地域の方の距離が近いと感じた。
- ・ 被災した過去のこともあり、地域全体で災害医療、救助に対する意識が強いと感じた。
それに伴い、チーム医療に対する認識も強いと思った。
- ・ 血圧測定などの技術以前に、患者さんと良好な関係を築く・情報を聞き出すためのコミュニケーション能力も重要であるということを痛感した。

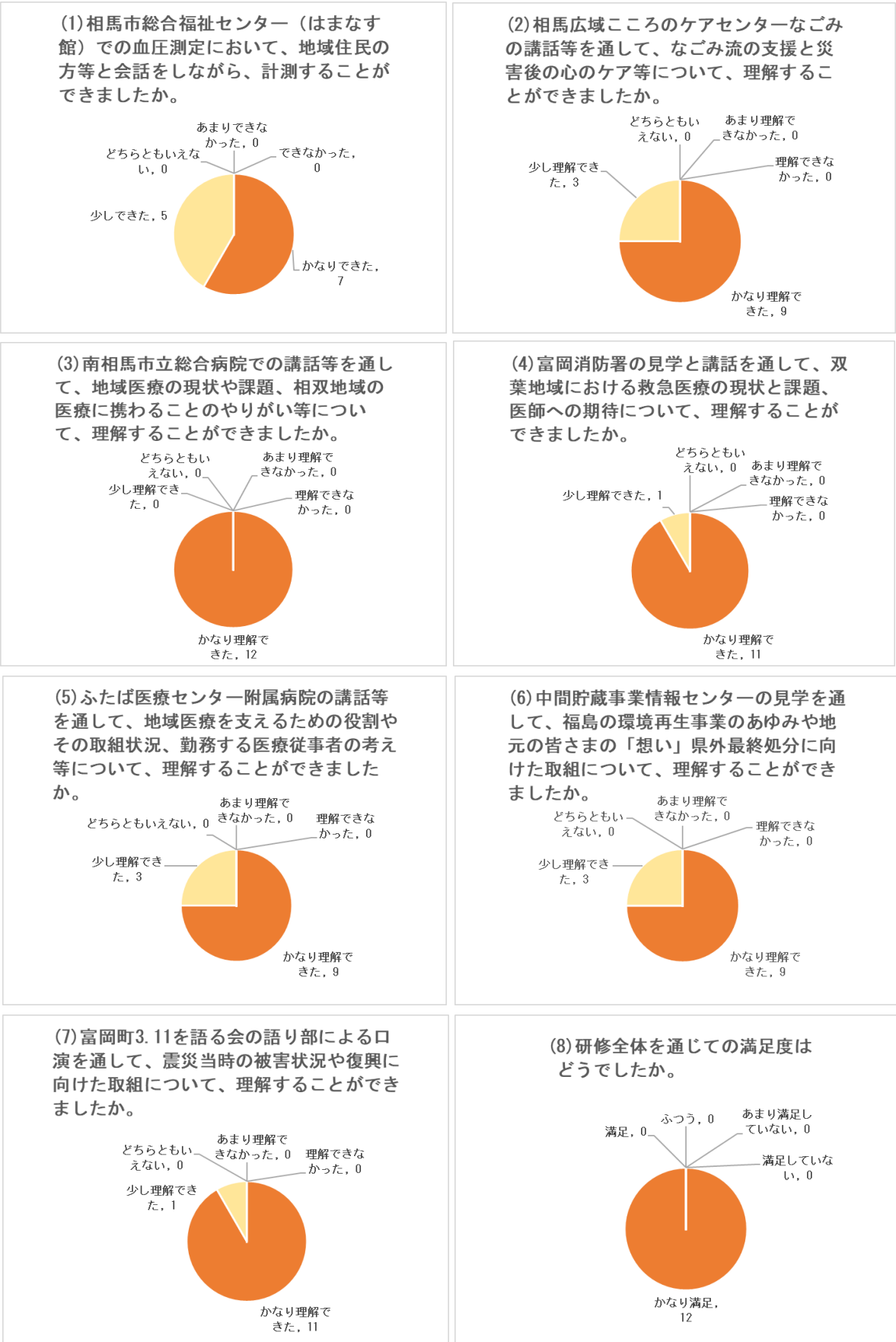
○「地域医療を担う医師に求められる資質・能力とは?」

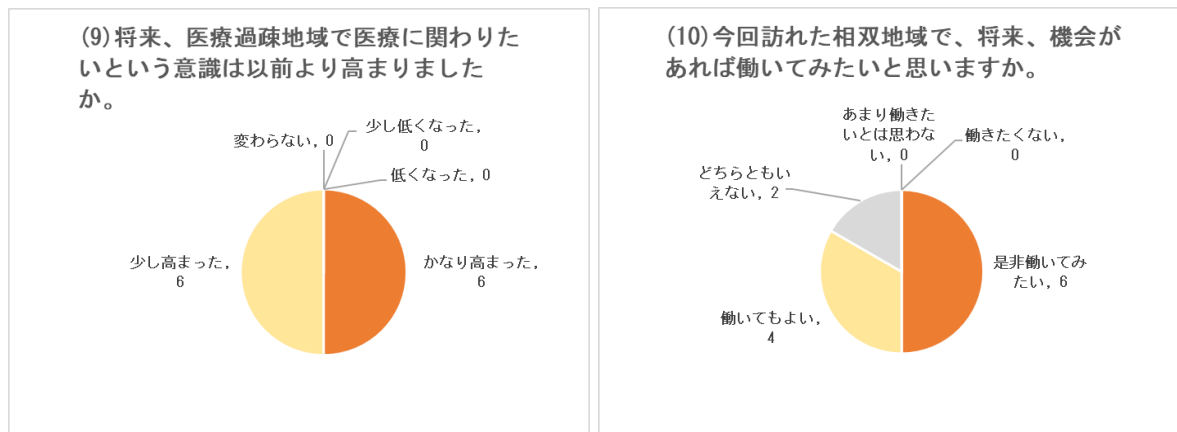
- ・ 得意分野や専攻を早々に決めて特定の分野の勉強ばかりするのではなく、幅広い知識を持ってある程度どの疾患についても対応できるマルチな医療技術
- ・ 患者の視点に立って考えられる能力
- ・ 医師個人としてだけでなく、病院としての地域でのありかたを意識して行動できる能力

○「地域実習を通して考える医学部卒業までに備えるべき能力とは?」

- ・ 医学知識や技術はもちろんのこと、それを正しく患者さんに施すためのコミュニケーション能力
- ・ 病気やその人の特性について差別や偏見を持たず誰に対しても寄り添う姿勢
- ・ 幅広い症例に対応できる能力

参加学生のアンケート結果（単位：人）※参加学生 12 人





○今回の実習で得た成果や学んだこと・感想等

- ・実習を通して、学校では知ることができない一面を知ることができた。また、地域の人と関わることで、人の温かさや相双の魅力を知ることができた。
- ・相双地域の医療について、地域の様々な仕事をしている方々の話を聞いて、社会のつながりを感じることができた。貴重な体験を通して、多くのことを学んだのと同時にこれから学んでいきたいことを見つけることができた。
- ・地域医療と一口にいっても、その地域の特徴に沿った医療を提供しているという実態を現場に行って知ることができた。
- ・医療についてのみ学ぶと思っていたが、人との関わり方から、視点の多様化など、それ以外のことにも目を向ける必要があると学んだ。
- ・実習を通して、医師の心構えの未熟さを知覚できたことが大きな学びとなった。

【主催者より～次年度の研修に向けて～】

今回の研修は、相双地域の医療や復興の現状について、医療機関・被災地の視察や地域住民との交流等を通して理解を深めてもらうことで、将来の地域医療の担い手の育成・県内定着を図ることを目的に企画した。内容としては、医師や看護師、地域住民、臨床研修医、病院ボランティア、救急救命士といった幅広い立場の方々と懇談する機会を設け、震災と原発事故の伝承に取り組む語り部の口演や福島県の復興・環境再生に向けた取り組みを学ぶための施設見学を行った。

学生からのアンケートでは、研修内容について全行程を通して、かなり理解できたという回答が多くあった。実際に相双地域で働く医療従事者や入院患者・ボランティア等との懇談を通して、医師として働くための心構えや働くうえで必要とされる能力等を想像できたこと等が理由として挙げられており、将来像をより鮮明に思い描くための契機になったことが考えられる。

「(8) 研修全体を通じての満足度はどうでしたか」という設問については、参加した学生全員から「かなり満足」という回答をいただいた。相双地域の現状や地域医療がどのようなものか理解することができたといった感想や被災経験のある学生からの共感、人の温かさに触れる声やご飯が美味しかったという声もあり、相双地域を好きになってもらうきっかけにもなった研修であった。

「(9) 将来、医療過疎地域で医療に関わりたいという意識は以前よりも高まりましたか」という設問については、地域の方々との交流の楽しさや地域医療の現状を知り、自分も携わりたいと感じたという感想や医療過疎地域と都市部との差異に触れつつ、異なる視点から医療を学ぶ良い機会になったといった感想が挙げられていた。

「(10) 今回訪れた相双地域で、将来、機会があれば働いてみたいと思いますか」という設問については、約 83%が「是非働いてみたい、働いてもよい」と回答しており、相双地域で医師として働くことについて、前向きな姿勢が見受けられた。

これらをふまえ、次年度の研修では、医療施設での研修を軸としつつ、引き続き医療従事者のほか、地域住民や社会福祉施設の職員等の幅広い立場の方と話をする機会を設けたい。かつ、相双地域の特性に焦点を当てた研修内容にすることで、相双地域の医療・復興の現状や関係者の相双地域に対する想いが伝わる研修にしたい。